

<第2議案>

2009年度収支決算（案）

8～9ページの2009年度収支計算書（自2009年1月1日 至2009年12月31日）と貸借対照表（2009年12月31日現在）をもって、2009年度収支決算とする。

<説明>

2009年度決算のポイントは以下の通りである。

1. 全体として

09年は、常勤スタッフ2人体制を前提に、当年度収支差額39万円の赤字を見込んでいたが、収入・支出ともに予算を大きく下回り、結果、約162万円の下方修正となる約201万円の収支赤字となった（予算比で約326万円の収入減、約165万円の支出減）。よって、2008年度からの繰越金141万円はゼロとなり、さらに約60万円の赤字が発生したことになる。この赤字分を埋めるために、将来計画のために保有している将来計画資金（2009年1月の時点で約957万円）から赤字分の約60万円を充当し（収入の部の「将来計画資金より」に計上）、2009年度の繰越金をゼロにした。

ピースデポ財政の実態を見やすくするために、将来計画資金は繰越金に含まず、別枠に示した。決算額の約70万円の内訳は、2009年度に発生した支出10万円と、上述の約60万円である。また、2009年における2008年度（08年7月～09年3月）及び2009年度（09年7月～10年3月）宜野湾市調査委託契約にかかわる収入、支出についても別枠で示した。

以上を勘案すると、2010年度予算への繰越金は、貸借対照表上では約852万円であるが、実質的には表の決算欄の「次年度繰越金」に計上されている通り0円である。

2. 会費収入について

会員・購読者の正味増40口（賛助会員相当）を目標としたが達成できず、また、会費督促の努力に反して年会費の回収率が伸び悩み、会費収入全体で予算比約110万円の減となった。

3. 事業収入・支出について

予算化していたイアブック09とピースデポ・ブックレットの発行を年度内に実現できなかったことを最大の理由として、収支ともに大幅に縮小した形となった。この2つの出版物の合計収入は予算比約212万円減、支出は予算比166万円減である（収支では約46万円の減）。一方、講演・執筆収入は予算を上回って約36万円増、情報サービス・調査受託収入も21万円増となった。以上を受けて、事業収支全体では、収入が予算比約162万円の減、支出は予算比約167万円の減であった。

4. 寄付金収入、助成金収入について

一般寄付、夏季、冬季、海外派遣カンパすべてにおいて目標額を達成し、予算比で約43万円増となった。一方、予算化していた助成金100万円は獲得することができなかった。

5. 管理費、予備費について

管理費全体としては、予算比で約13万円の増となった。海外での活動にかかる旅費・交通費が予算を超過したことが原因のひとつである。